

【セグメント分析・活用シート】

施設分野 **図書館**

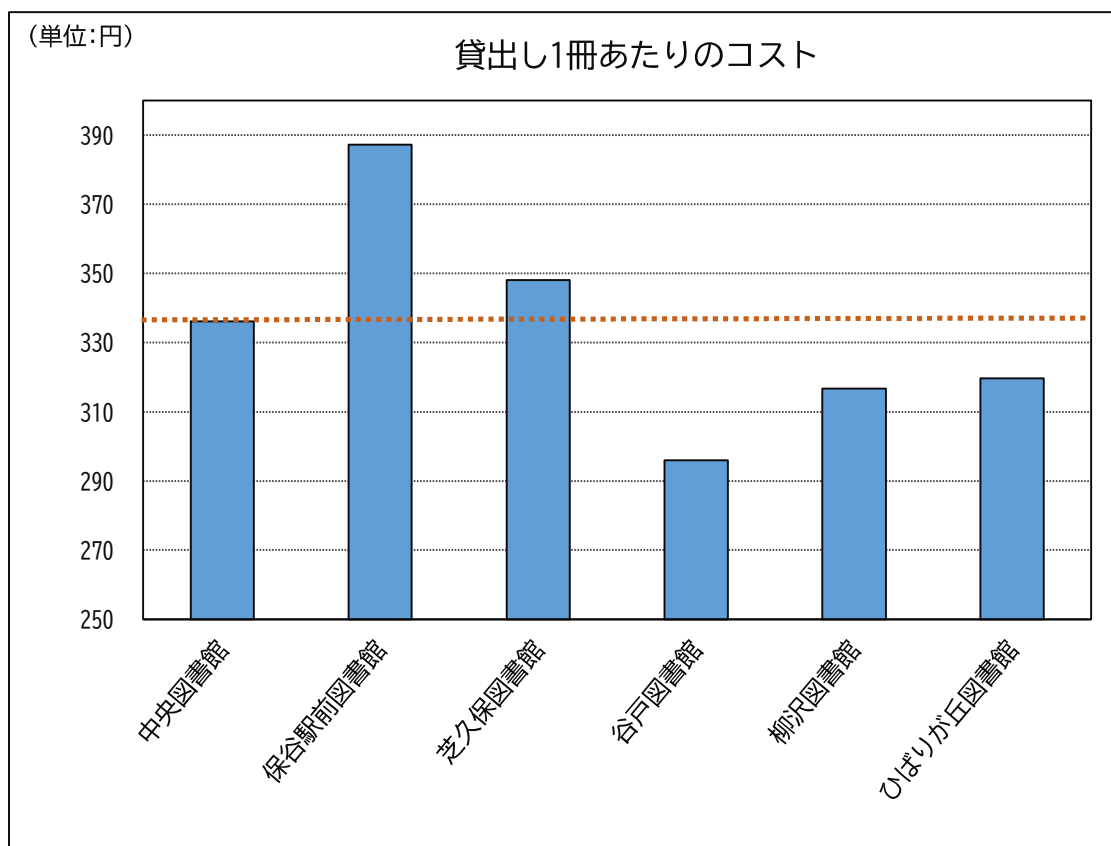
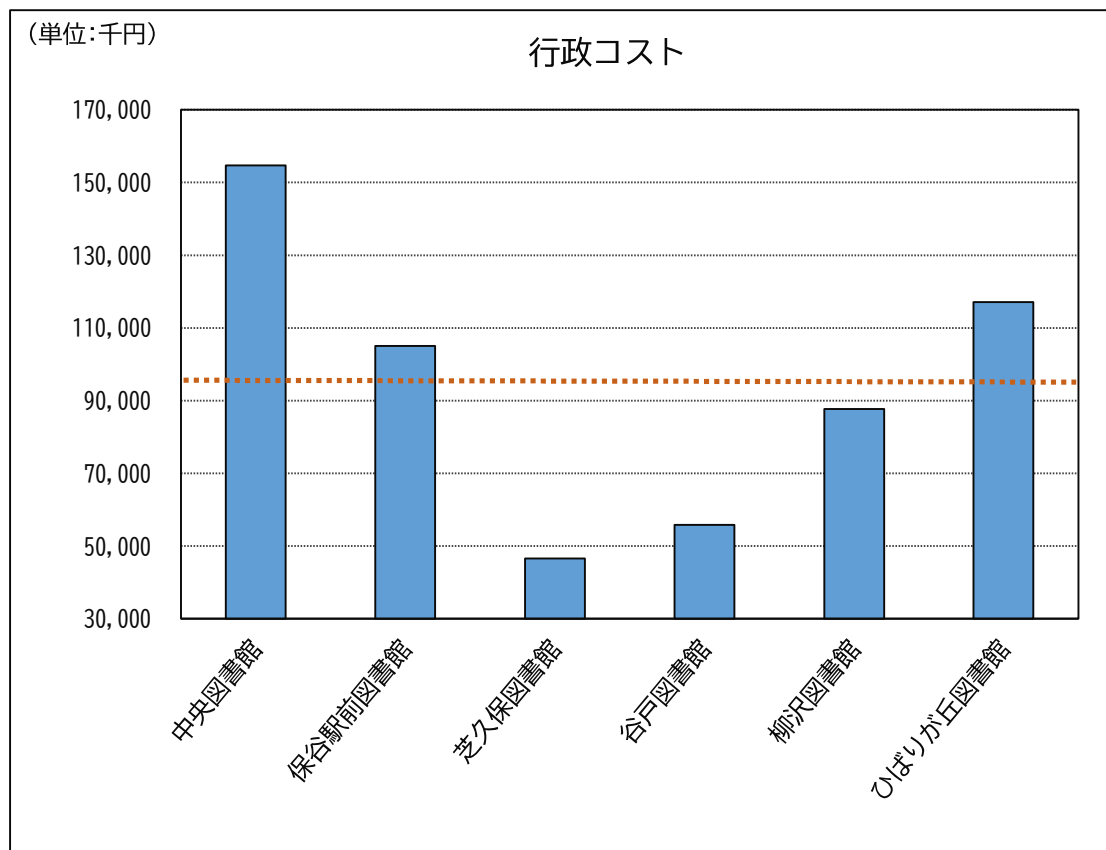
1 分析指標

施設名称	中央図書館	保谷駅前図書館	芝久保図書館	谷戸図書館	柳沢図書館	ひばりが丘図書館
行政コスト (千円)	154,658	105,062	46,517	55,822	87,686	117,064
延床面積 (㎡)	1,571.80	936.52	625.11	770.00	813.00	1,101.02
1㎡あたりコスト (千円)	98	112	74	72	108	106
貸出し冊数 (冊)	460,060	271,351	133,648	188,601	276,818	366,227
貸出し1冊あたりコスト (円)	336	387	348	296	317	320
貸出し利用者数 (人)	189,804	121,799	47,203	71,943	114,369	155,190
建物資産減価償却率 (%)	88.7	51.6	18.0	18.0	44.5	53.4

施設名称	平均
行政コスト (千円)	94,468
延床面積 (㎡)	969.58
1㎡あたりコスト (千円)	95
貸出し冊数 (冊)	282,784
貸出し1冊あたりコスト (円)	334
貸出し利用者数 (人)	116,718
建物資産減価償却率 (%)	64.0

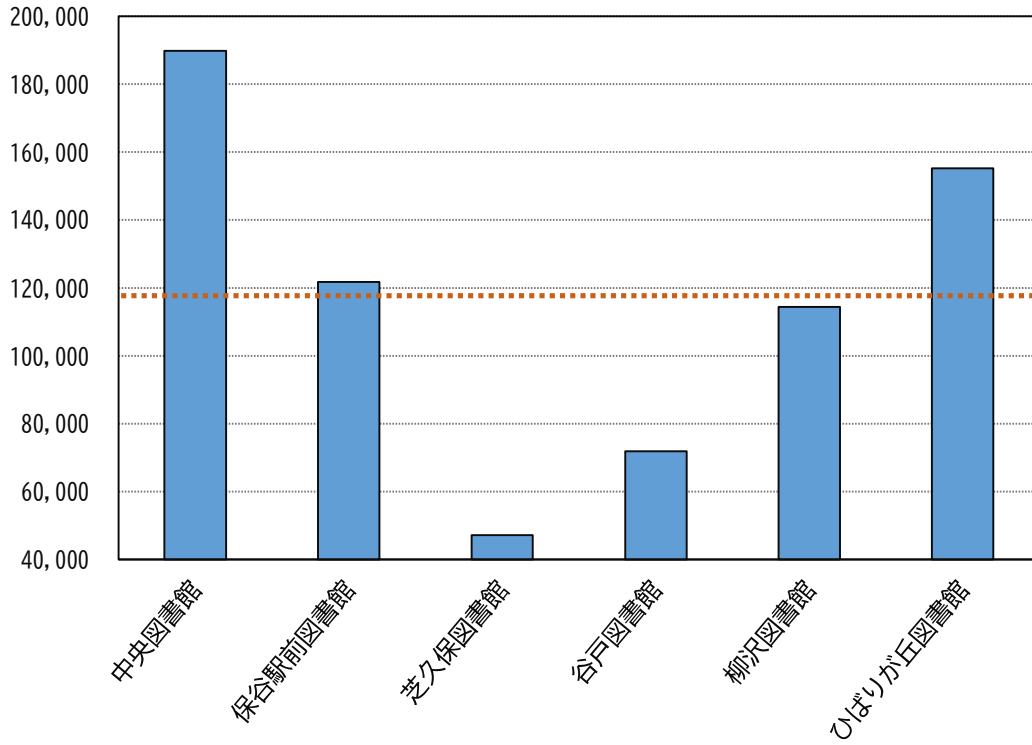
※芝久保図書館、谷戸図書館、柳沢図書館は、都営住宅からの無償貸与によって運営している施設のため、施設建設時の工事費が発生しないことから、同時期に整備された他の施設と比べ、建物資産減価償却率が低くなっています。

2 グラフ分析



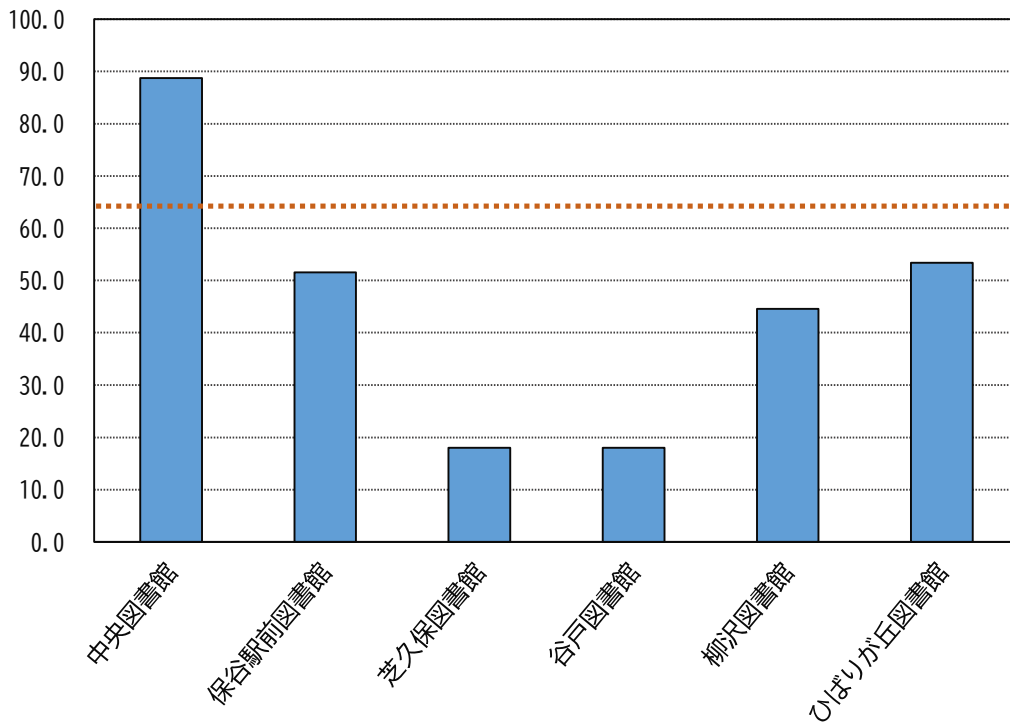
(単位:人)

貸出し利用者数

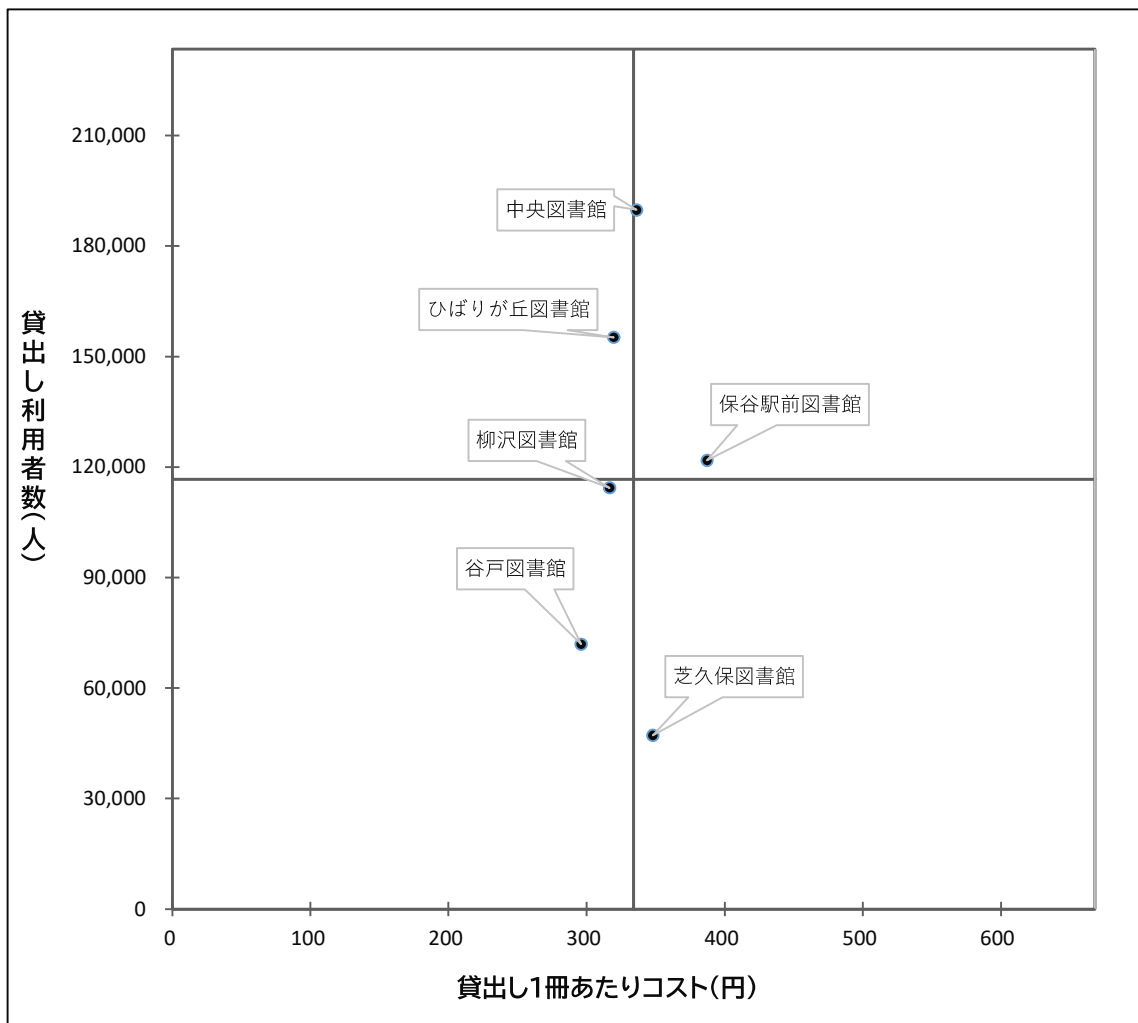


(単位:%)

建物資産減価償却率



3 評価グラフ



4 評価グラフから見る主な分析

<p>芝久保図書館</p>	<p>芝久保図書館は、市内西部地域に位置し、駅前にある他の4か所の図書館と比較すると施設が住宅地にあり、交通のアクセス面などから利用者の多くが徒歩・自転車圏内の市民となっている。そのため、利用状況が低く、貸出し1冊あたりの行政コストが他の図書館と比較すると高い。</p> <p>ただし、市全域人口における地域人口割合を考慮すると利用状況が悪くはなく地域人口に対応した施設と言える。また、子どもの学びや憩いの場として地域住民からも親しまれている。</p> <p>一方、行政コストについては、都営住宅の施設を使用していることから建物資産減価償却費は書架耐震工事費のみとなっている。</p>
<p>保谷駅前図書館</p>	<p>保谷駅前図書館は、区分所有であることから施設維持管理費負担金が毎年発生する。そのため、延床面積が同規模の柳沢図書館と比較すると高コストとなる。</p> <p>一方、施設の物件費は、駅前にある他3か所の図書館と比較すると特段高コストとは言えないが、建物の大規模改修などを実施する場合に、一定の負担金が発生することに留意したコスト意識が必要である。</p>
<p>谷戸図書館</p>	<p>谷戸図書館は、図書館が点在していない市内中部地域に位置し、周辺の地域に大規模な集合住宅が多い。よって徒歩・自転車圏内の市民利用が多く、延床面積が同等規模の芝久保図書館と比較すると利用者は多い。</p> <p>一方、行政コストについては、都営住宅の施設を使用していることから建物資産減価償却費は書架耐震工事費のみとなっている。</p>

5 現状に対する施設所管課の総括

<p>芝久保図書館</p>	<p>市全体で比較すると地域住民の人口は低めとなっており、交通のアクセスも悪いことから、貸出し利用者や貸出し冊数が少なくなり、建物が市所有でない割に、貸出し1冊あたりのコストが若干高い。利用状況やコスト指標からの分析では、課題施設として取組が必要な施設の1つとして捉えている。今後の検討に際しては、地域館の役割を担っていることから、将来的な中央館と地域館との役割など様々な視点での検討が必要である。</p> <p>地理的要因を払拭する蔵書の充実度を上げる取組や、特色を持たせた蔵書構成への変更なども併せて検討する。また、建物の老朽化については、建物資産減価償却率では書架耐震工事費のみの老朽化比率であるが、設備や築年数を踏まえると老朽化は進んでいることから、施設再編の方向性についても、地域ニーズを踏まえつつ、公共施設等総合管理計画の基本方針に沿って検討を行う。</p>
<p>保谷駅前図書館</p>	<p>区分所有の施設のため施設維持管理費負担金が発生し、延床面積が同規模の図書館と比較すると、貸出し1冊あたりの行政コストが高くなる。コストの検討については、施設別行政コスト計算書を活用し、図書館分野内の比較のみならず他の施設分野も参考に検討する。また、利用状況については、利用増につながる施策を検討する。運営、維持管理の効率化に資する取組についても併せて検討を行う。</p>
<p>谷戸図書館</p>	<p>貸出し冊数や利用者数などの利用状況の維持・向上については、従前からのハンディキャップサービス、児童サービスなどの取り組みを充実させるとともに、利用増につながる施策を講じる必要がある。行政コストを他の図書館と比較しつつ、コスト削減の可能性についても分析が必要である。</p> <p>今後は、利用状況の分析による利用者ニーズの把握とともに、蔵書の充実度を上げる取組や、特色を持たせた蔵書構成への変更も併せて検討を行う。</p>

